

# はまなす通信

Rosa rugosa Mail

社会福祉法人

勤医協福祉会だより

2025 秋号

勤医協福祉会

〒007-0835 札幌市東区

北35条東27丁目3番18号

TEL011-811-8002

2025年秋号（通算第16号）

発行責任者 松本 宜子

2025年

## 原水爆禁止世界大会

2025年8月3日から9日まで、原水爆禁止世界大会が開催され、勤医協福祉会より2名、道央事業協より1名の代表を派遣しました。現地で貴重な経験をできた参加者の感想を紹介します。

大田 真輝さん（東センター）

被爆者の方と対談して・・・  
もっとフランクに原爆のことを話せる社会になってほしいと話されていたことが印象的でした。

原爆資料館では当時の写真や被害を受けた当時の建物や日用品が多く展示されており、写真を見るたびに呼吸を整えなければなりません。

爆心地公園の中心、原爆が投下された地点に碑が建てられています。原爆投下当時を思い胸が苦しくなりました。

世界大会期間中、共に行動した仲間とは交流が続いています。世界中から平和を願う人が長崎に集まっています。スピーチでは、多くの人が核兵器は必要ないと訴えていました。

法人が取り組む平和な社会を求める取り組みに参加してきましたが、今までの自分は心細い思いを持っていました。

原水禁世界大会に参加して、志が同じ人が世界中にいることに気づきました。原水禁に参加しましょう。



小山 ゆきえさん  
（もなみの里）

サテライトキッチン）

被爆者として原爆の語り部として活動されている横山照子さん（日本被団協代表理事）が「あなたは世界が必要としている光なのです」と私たちに話してくださったのが印象的でした。

被爆後に生まれる子供は体が小さく、いじめられるという問題があったそうです。

原爆資料館は、きれいに展示されており、本当の悲惨さは伝わらないと話される方もいらつしました。確かに建物も新しく、展示も見やすくなっていました。しかし戦争や被爆当時の状況を思いながら見ていくと、戦争というのはもっともつと恐ろしく、汚く、そしてだからこそ、この先絶対に起こってはいけないことだと強く思いました。

爆心地公園では原爆1発でこのような悲惨な歴史が生まれたことを考えました。

8月9日、長崎は朝から大雨に見舞われました。そのような中で被爆80年ナガサキデー集会に参加しました。

日本全国、世界各国から人が集まり、体育館は満席でした。そこで今の世界の危うさや核の恐怖をあらためて認識することができました。

現地長崎に行き、誰もが原爆に怒り、被爆に悲しみ、「長崎を最後の被爆地に」という思いで生活しているのだと感じました。

原水禁世界大会に参加して、多くのことを吸収できました。8月9日だけでなく、今後も自分に何ができるか、行動できるか考え、この貴重な経験を活かしていきたいです。

迫田 明莉さん

（しのろセンター）

長崎は夜景が美しい街でした。グラバースカイロードや爆心地から4キロメートルほど離れた美しくライトアップされた大浦天主堂が宿泊地近くにありました。

一方で原爆投下時、爆心地近くにあった浦上天主堂は壊滅的な被害を受け、多くの方がそこで亡くなったことを知りました。

もともと自分は原爆について、積極的な思いを持っていませんでした。被爆体験の語り部として活動されている横山さん、田中さん（日本被団協事務局長）からお話を伺いました。

横山さんは妹さんの被爆体験も交えて話され、原爆投下を行ったアメリカへの強い思いを話されました。「私は、モルモットでも見世物でもありません。でも私の体を見たあなたは目を背けないでください。私の体を見たら原爆の恐ろしさが分かるはずです。」と痛々しい体を隠さずに見せて教えて下さいました。原爆の被害は、あの時だけではなく、人間の一生をだめにするという言葉が印象的でした。

田中さんは、あと10年早くノーベル賞を受賞できていたら、一番頑張ってきた人達と喜べたのにと、被爆から80年後の2024年12月に日本被団協が受賞したノーベル平和賞のことを話されました。

資料館では、これまで原爆を当事者として考えていなかったことに気づかされました。核兵器の解体には多額の費用と危険が伴うことも学びました。

また人によって戦争や原爆への考え方の違いがあることも知りました。

原水禁世界大会は、世界中が注目する重要な会議です。被爆80年。今こそ世界は核兵器廃絶に向かって進めていかなければなりません。

これからは被爆二世が語り継ぐ時代となります。私も私の言葉で伝えていきたいと思っています。皆さんもそれぞれの言葉で伝えていきましょう。

ノーモアヒバクシャ

会館見学



2025年3月21日、札幌市白石区「ノーモアヒバクシャ会館」を勤医協職員16名で見学してきました。核兵器の恐ろしさを物語る展示物と被爆体験のお話に、核兵器はいらないという思いがより一層強くなりました。ノーモアヒバクシャ会館は4月1日より北星学園が管理運営していますが、当分の間は今まで通りに見学可能です。



# 「ケアの倫理カフェ」 学習月間の取り組み

全日本民医連第46回定期総会（2024年2月）で「ケアの倫理」を深めることが提起され、勤医協福祉会では、職員がやりがいを持ち成長し合える職場づくり、法人の理念を中心に据えた組織文化の深化と発展を追求する点から、ケアを身近なものとしてとらえ、カフェで語り合うように気軽な感じで、全職員で学び合おうと2025年4月から10月までの半年間を、「ケアの倫理カフェ」学習運動月間と位置づけました。

2025年8月現在、全日本民医連発行の「ケアの倫理」を教材に、連日学習に取り組んでおり、各事業所では、部会や会議の中で読み合わせ学習や各自読了を進め、感想交流するなど、日々の業務と並行して、工夫し、学び合う様子が報告されています。

職員からは「ケアの倫理は、社会生活において、欠かすことのできないものであることを改めて認識した」

「誰もがケアしケアされる存在であることに気づいた。歴史的にケアは男女間など様々な面で偏りがあったなど、新たな学びを得て、ケアの倫理についての理解が深まった」という声が寄せられています。

2025年4月から7月までの当法人での学習会開催数は254回。職員参加延べ数は1961人となっており、引き続き学びを深め、私たちが提供する、介護、医療、保育サービスのケアの質の向上につなげていきたいと思っています。



## 介護職から

「ケアする事が前提と考えていましたが自分も利用者さんによってケアされていると気づかされました。利用者さんの笑顔や言葉に救われる事が沢山あります。利用者さんのニーズに応えようとスタッフ一丸となり話し合い、ケアに繋がった時には達成感がありやりがいをとて感じています」

「ケアの偏りについて、家事や育児を妻に大部分任せていた部分がありました。無償のケア労働を見過ごしていたことに気づかされました。」

『ケアする人のケア』『ケアされる人ではなくケアする人のケア』について考える機会となりました」

## 保育士から

「ケアの倫理として、保育のことが取り上げられていることを嬉しく思いました。処遇改善、保育の質の向上はこの先も訴えていかなければならない課題だと思っています。」

子供の命尊厳に関わる事、子供を尊厳ある人でケアされる存在であることを深く意識して関わっていききたいと思っています」



Youtube  
で法人紹介動画を  
公開しています！

一緒に働きませんか？  
介護職・看護師・ケアマネジャー  
リハビリ職、保育士、事務職  
ご応募・ご紹介お待ちしております。

【お問い合わせ先】

勤医協福祉会 共育部  
電話番号（011）826-3551

## 寄付金ご協力のお願い

お申込み・お問い合わせ  
寄付申込書をご記入の上、お近くの  
当法人の事業所へご持参ください。  
また、振込用紙もご用意しています。  
詳しくは当法人の事業所へ  
お問い合わせ下さい。

## 本部移転のお知らせ

（新住所）〒007-0835  
札幌市東区北35条東27丁目3番18号  
TEL 011-811-8002